ります きな出

気持ちや感情を豊かにしてみたい。せっかくの人生、いろいろ学んで、感じて、本にはたくさん詰まっています。一人では経験しきれない生き方や世界が

そんなあなたにお勧めの情報を紹介します。本を読むだけでは物足りない―。図書館まで行くのが大変。でも―。





子どもたちに昔話を中心と 前派遣事業をスタ ら市内の小学校への昔話出

下・さいき図書館での読み聞中・小さい子のためのおはな写真上・移動図書館車たんぽ

届けます

手にお話を届けることです。 リングのおはなし会。催されているストーリー はつか 聞き手は、お話を聞いて頭 覚えて生の声で語り、 や創作の物語を本の通りに はなしの時間が始まります。 くの火が静かに揺らぎ、 奇数月の第3土曜日に、 いち市民図書館で開 テリングは、 昔話 聞き ステ お

が詰まっていて、喜びがあのさまざまな生き方や心情伝えられてきました。人間

さんは、 行っています。 したスト

お話選びはとても重要でを頼りにお話を聞くため、 す」と20年以上語り手をし 「子どもたちは、 耳だけ

て活躍しています。

つなぐ懸け橋になれたらう 聞き手である子どもたちを 話に出会ってほしい。

おはなしボランティアとし

図書館や小学校で

梅地佳代子ーテリングを

語りの先に読書があれば

「聞き手にぴったり

ん の お 本と

ができます」。 ものです。昔話を聞くこと し、生きる知恵を学ぶことで、たくさんの疑似体験を 「昔話は、世界中で語り いる梅地さんは話します どんな人生も肯定する

あり、聞き手同士の心もつり手と聞き手の心の交流が進めていきます。そこに語

なぎます。

お話を楽しんでい。これからも子ど

がら、 ます。

語り手はお話を前に 聞き手の反応を見な

と豊かな表情を見せてくれ

聞いて驚いたり、

笑ったり

「子どもたちは、

お話を

しいです」。





おはなしボランティア 梅地 佳代子さん

そっとつけられたろうそ

図書館では、平成24年の中でイメージします。 平成24年か

で話してくれました。きたいと思います」と笑顔

人からも元気をたくさんもらっています。これからもたいです」と話してくれまたいです。これからも

子どもだけでなく、

年配の

移動図書館車たんぽぽ号運転手

(廿日市市シルバー人材センター) **景山 祐之さん**

移動図書館車たんぽぽ号

はつかいち市民図書館

学校の生徒の提案をきっかれあいトーク」で、吉和中 和地域も巡回するようになけに、平成19年4月から吉 どが並んでいます。 改造して作られた車内には、 われた「中学生と市長のふ に大野町の巡回を始めまし 約1500冊の本や雑誌な たんぽぽ号は、 合併後の平成18年に行 マイクロバスを 昭和46年

望を受け、 に2度巡回。 園にも立ち寄っています。 りました。 メーンの大野コースは月 現在はさらに要 佐伯地域の保育 停車場所周辺

本と笑顔を乗せ、

走ります

山祐之さん。7年間休むこ 取材した日の運転手は景 びに、やりがいを感じます と言ってもらったりするた の皆さんから『助かるわ』でいる姿を見たり、利用者 らうれしそうに絵本を選ん きな子が車内を見渡しなが かり顔なじみ。 となく地域を走っています 「常連の皆さんとはすっ 乗り物が好

おはなし会 ※開催日は毎月「施設の催し情報」に記載。 今月号は30ページ。

の皆さんが、絵本を読むだけでなく、わらべ歌や手遊びなども紹介し ます。読み継がれてきた物語やリズムが面白い作品など、それぞれの 特徴を持つ絵本で会を構成し、子どもが聞きやすいように読んでいき ます。家庭での読み聞かせの引き出しを増やしてみませんか。



届ける移動図書館車「たん 域のコースを巡回して本を

> たんぽぽ号の訪れを知らせ で音楽を流しながら走り、

近所同士の情報交換の場

大野図書館を出発し、

顔で話してくれました。 ので毎回楽しみです」と笑 面白かった本の話だけでな えます。近所の利用者同士 希望の本を持ってきてもら リクエストもできるので、 れるのは本当に便利です。 子さんは「近くまで来てく 人たちと待っていた藤原啓到着前から停車場所で友 趣味などの話もできる

毎月決まった日におはなし会を開催しています。職員やボランティア



小さい子のためのおはなし会の様子。

広報はつかいち平成28年3月号 広報はつかいち平成28年3月号 4